

1 研究主題、研究内容・方法について

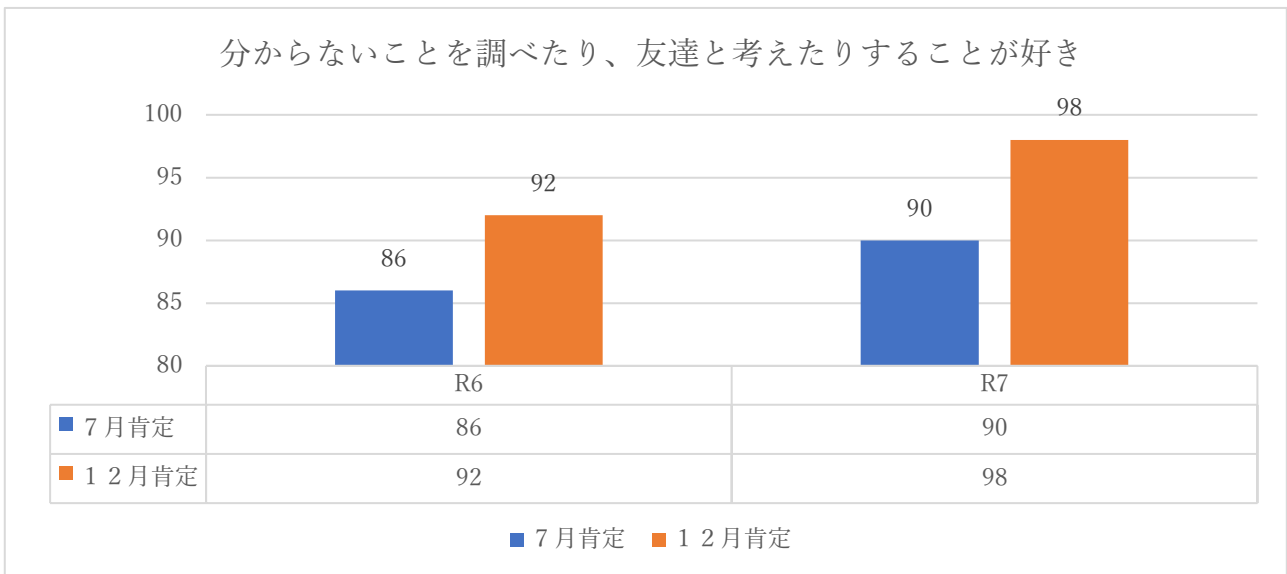
(1) 研究主題

自ら学ぶ児童の育成  
～児童が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、一昨年度から「単元内自由進度学習」「協働的な学習」に取り組んできた。

昨年度は、特に（１）自己調整力を高めるための学習計画の工夫等について（２）教師の児童への働きかけや見取りに関する質の向上の２点を中心に研究を進めた。振り返りにおける自己評価のやり方には課題が残ったが、発達段階に応じた学習計画表と振り返りの取組を繰り返し行うことにより、児童は、より具体的に振り返ることができるようになっただけでなく、次の学習の動機付けにつなげることができるようになってきた。また、児童が主体的に学びを進めていく上で効果的な支援が分かってきた。児童アンケートも次のような結果となり、少しずつ児童の意識が高まっていることが分かる。



しかしながら、45分の授業時間内で児童の様子を見取り、個に適した働きかけができにくいという課題も残った。また、江田島市小中学校学力調査の結果においては、下記のように学年によって課題は異なるが、国語科と算数科において、思考力、判断力、表現力等に関する項目が、全国平均より低い傾向にあった。

【江田島市小中学校学力調査結果】

	国語（思考・判断・表現）			算数（思考・判断・表現）			理科（思考・判断・表現）		
	全国	校内	達成率	全国	校内	達成率	全国	校内	達成率
1年	64.6	78.6	122	66.4	83.9	126			
2年	73.0	79.4	109	57.9	73.6	127			
3年	73.6	63.0	86	52.3	61.1	117	61.1	50.4	82
4年	65.6	68.0	104	55.7	57.8	108	62.7	81.8	130
5年	65.3	72.6	111	53.6	50.0	93	56.7	74.2	131
6年	72.8	68.4	94	58.8	42.9	73	56.3	61.4	109

※【達成率】・・・校内平均正答率÷全国平均正答率

平均正答率の低い項目を分析すると、特に、「読むこと」「数と計算」において課題が見られた。

そこで、児童自ら選択し、決定する個別最適な学びと対話を生かした協働的な学びを効果的に組み合わせた単元構成を展開することで、学びが停滞する児童への指導を充実させ、個の学びを進めるための支援や手立てを研究したいと考える。そのために、取組を二つ考える。一つ目は、教師の児童への働きかけや見取りに関する質の向上である。45分の授業時間内で児童の様子を見取り、個に適した働きかけができるように、担任が事前に個々のつまづきを把握し、それに対する支援方法をできるだけ多様に考え、それを指導案に記入するようにする。また、それらの支援が適切だったかどうかを授業後の協議会で議論する。これにより、教師の働きかけや見取りに関する質が向上していくのではないかと考える。

二つ目は、基礎・基本の定着である。自分で学びを進めていく上で、既習事項が理解できていないと思い通りに進めていくことができない。また、江田島市小中学校学力調査と各単元末テストの結果分析を行うと、学習後すぐに行う単元末テストでは、正解していても、少し期間が空いてしまうと間違えてしまう児童や、前学年の内容が出題されると、間違えてしまう児童が多いことが分かった。そこで今年度は、朝の学習タイムを使って算数を中心に既習単元をランダムに配列した問題等に取り組む。

これらの取組を継続的に行うことにより、児童は、課題意識をもって学習を進めることができるようになり、自ら学ぼうとする主体性をより高めることができると考える。

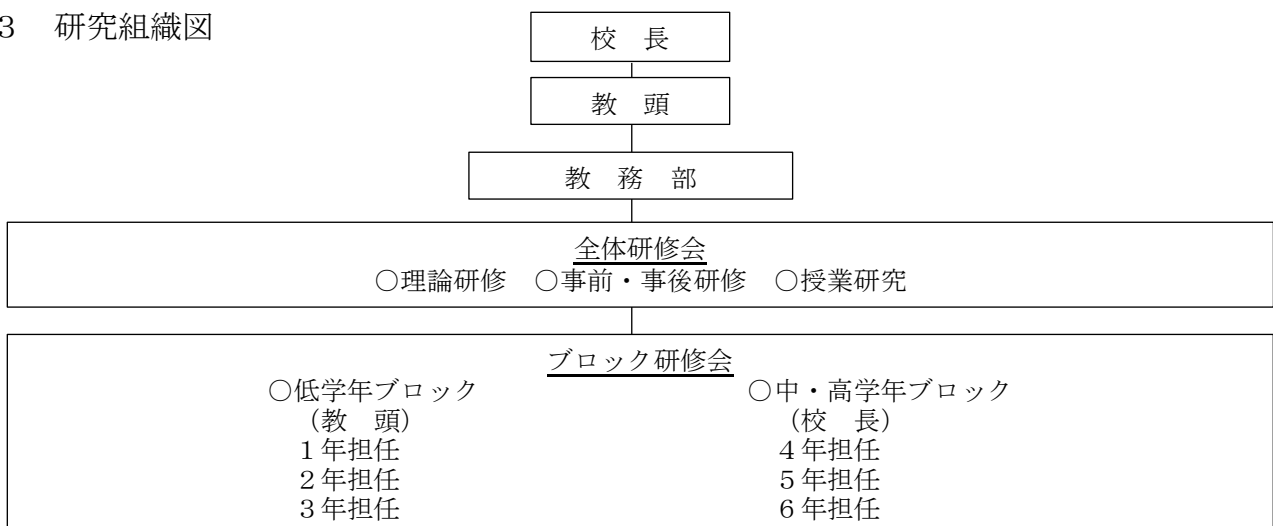
### (3) 研究仮説

個々の実態を把握して、児童自ら選択し、決定する個別最適な学びと対話を生かした協働的な学びを効果的に組み合わせた単元構成を展開することで、児童に基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、課題意識をもって自ら学び続けることができるであろう。

## 2 研究内容・検証の指標及び検証計画

研究の視点	具体的な内容	検証の方法	検証の指標
① 個別最適な学びと対話を生かした協働的な学びを効果的に組み合わせた授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた学習課題、学習形態、学習方法等の選択</li> <li>教師の児童一人一人に適した働きかけ</li> </ul>	○児童アンケート	○7月と12月に実施する児童アンケートにおいて、2回とも肯定的評価90%以上を目指す。
② 思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江田島市小中学校学力調査</li> <li>単元末テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均との差が、昨年度より向上する。</li> <li>各学年の2教科(国・算)の全テストの思考・判断・表現の到達度が60%以下の児童を減らす。</li> </ul>

## 3 研究組織図



#### 4 校内研修計画

月	研修形式	内 容	講師招聘
4	3 ○研修・交流	・研究主題・推進計画について ・研究の方向性、育成する力の共有化 ・国語科系統について ・指導方法改善策について	
	28 ○ブロック研修	・①指導案検討（6学年）	
5	19 ○全体研修	・①指導案検討（6学年）	
	29 ○ブロック研修	・②指導案検討（5学年）	
6	2 ○授業研究・協議会	・①（6学年 5時間目一算数）	広島大学大学院 木下 博義教授
	12 ○全体研修	・②指導案検討（5学年）	
	26 ○授業研究・協議会	・②（5学年 5時間目一算数）	（市教委） （西部教育事務所）
7		・児童アンケート実施（1回目）	
	22 ○交流	・1学期の授業づくりについて ・児童の様子について	
8	6 ○ブロック研修	・③指導案検討（2学年）	
	27 ○全体研修	・③指導案検討（2学年）	
9	14 ○授業研究・協議会	・③（2学年 5時間目一国語）	（市教委） （西部教育事務所）
	17 ○ブロック研修	・④指導案検討（4学年）	
10	1 ○全体研修	・④指導案検討（4学年）	
	16 ○授業研究・協議会	・④（4学年 5時間目一算数）	（市教委） （西部教育事務所）
	27 ○ブロック研修	・⑤指導案検討（1学年）	
11	13 ○全体研修	・⑤指導案検討（1学年）	
	18 ○授業研究・協議会	・⑤（1学年 5時間目一算数）	
12		・児童アンケート実施（2回目）	
	15 ○学力調査	・江田島市学力調査実施	
	24 ○交流	・授業づくりについて	
1	6	今年度の研究のまとめ （研究の振り返り締め切り）	
2		次年度の研究計画	

4 研究公開の予定について  
なし